

【16-A】 本地連区 社会条件

【連区の概要】

本地連区は瀬戸市の南西部に位置し、尾張旭市および長久手市に接する。矢田川北岸は主として市街地が広がる一方、矢田川南岸は主として農地が広がっている。また、南西部市境付近では工場が集積している。主要道路としては、本地連区の北東部から西部にかけて国道 363 号が通過している。

本地連区



【人口および世帯数】

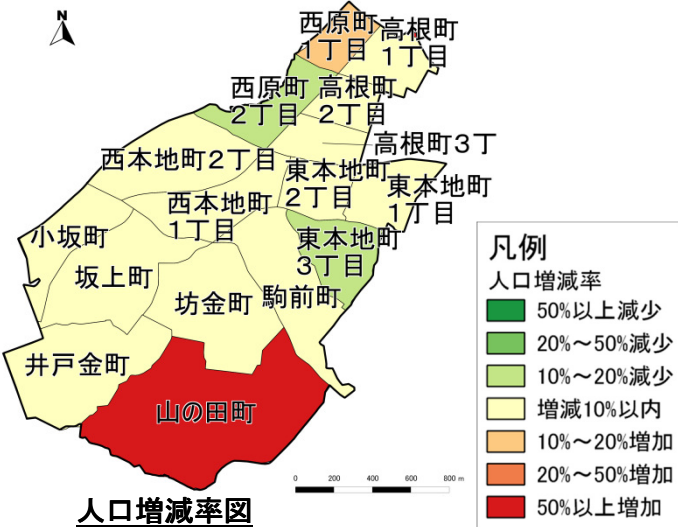
平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、本地連区全体の人口は、5,231 人から 5,457 人と 4.3%増加している。連区内では、工場が立ち並ぶ山の田町と長根連区に接している西原町 1 丁目では増加し、矢田川と本地川に挟まれた西原町 2 丁目と東本地町 3 丁目ではやや減少傾向にある。また世帯数は 1,821 世帯から 2,019 世帯と 10.9%増加している。

本地連区全体の 65 歳以上人口比率が 19.5%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて低い。連区内では、人口が減少傾向にある西原町 2 丁目および東本地町 3 丁目目で 65 歳以上人口比率が比較的高い。

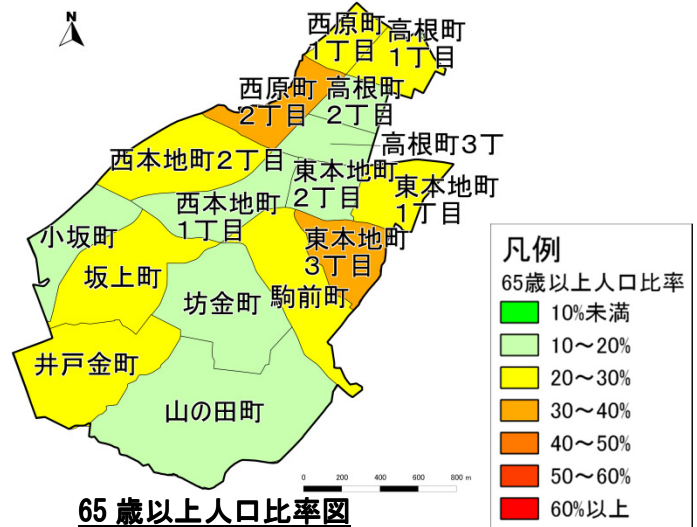
階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	787人	14.5%
15～64歳	3,584人	66.0%
65歳以上	1,056人	19.5%
区分不明	30人	-
連区内人口	5,457人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

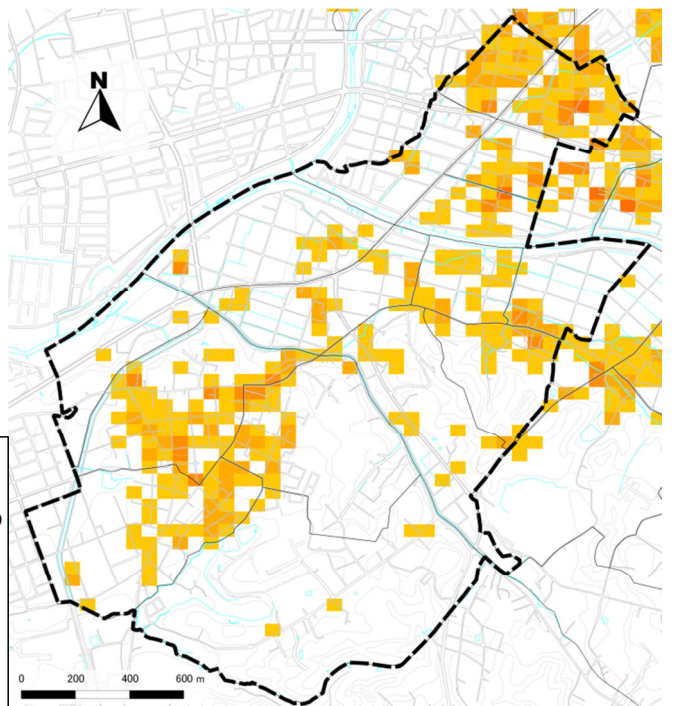
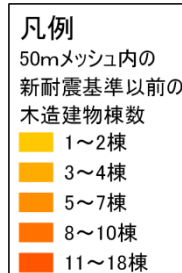
【建物】

本地連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 58.9%、非木造建物 41.1%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 33.0%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて若干低い。矢田川の北側（西原町 1 丁目、高根町 1 丁目）や、本地川の南側（坂上町、坊金町、井戸金町）など、住宅用途の建物が分布する地域では、比較的新耐震基準以前の木造建物が多い。

木造・非木造構成比

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	392棟	14.2%
	S36～55年	517棟	18.8%
	S56年以降	715棟	25.9%
	計	1,624棟	58.9%
非木造	S45年以前	423棟	15.3%
	S46～55年	150棟	5.4%
	S56年以降	560棟	20.3%
	計	1,133棟	41.1%
連区内棟数		2,757棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

【16-B】 本地連区 水害および土砂災害

- 矢田川と瀬戸川の合流点に浸水想定区域が存在する。
- 連区中央部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域がある。
- 連区南西部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

【水害および土砂災害箇所】

本地連区では、矢田川と瀬戸川の合流点の南側の地域に、浸水想定区域が存在する。浸水が想定されるのは、西本地町1丁目・2丁目である。西本地町2丁目では、平成12年の東海豪雨時に浸水被害が発生している。なお、浸水想定区域の建物棟数は50棟である。

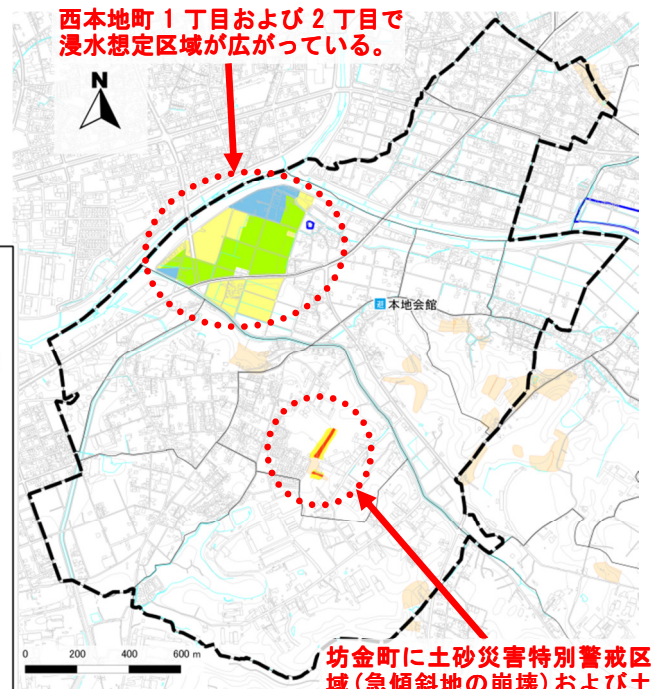
また、坊金町で2箇所、土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）に指定されている。

その他、本地連区内では、急傾斜地崩壊危険箇所についても15箇所指定されている。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	4棟
特別警戒区域	2棟
警戒区域	2棟

凡例	
	風水害避難所
土砂災害情報	
	急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
	土石流（特別警戒区域）
	急傾斜地の崩壊（警戒区域）
	土石流（警戒区域）
	土石流危険渓流
	土石流危険渓流による危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所
浸水想定区域	
	0.5m未満
	0.5m～1.0m未満
	1.0m～2.0m未満
	2.0m～5.0m未満
	既往水害（東海豪雨）



西本地町1丁目および2丁目
浸水想定区域が広がっている。

坊金町に土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）がある。

水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

本地連区では、本地会館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。連区北部の西原町1～2丁目、高根町1～2丁目の一部と、連区南部の小坂町、坂上町、井戸金町、山の田町において、避難所までの距離が700m以上離れている。風水害時の避難所が付近に存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

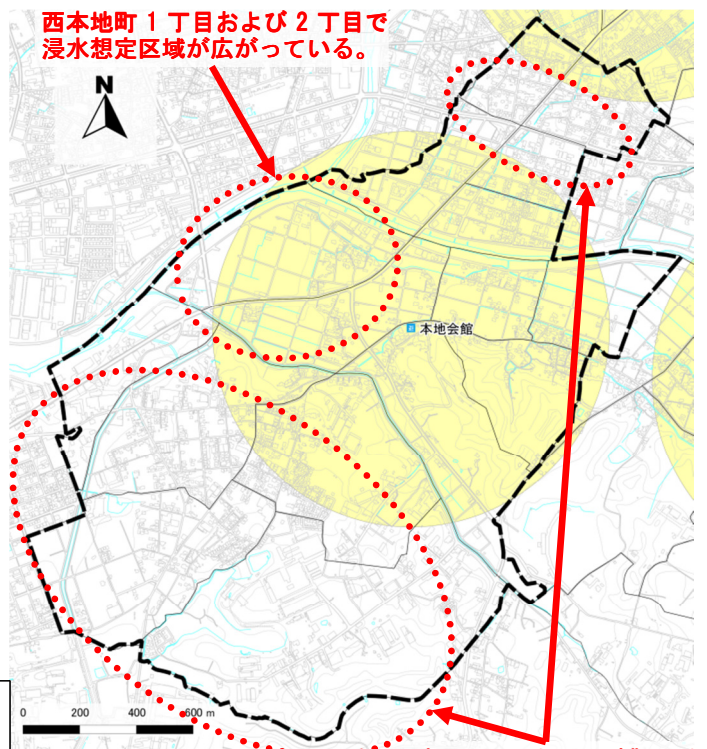
また、矢田川によって形成された沖積地の広い範囲に浸水想定区域が広がっているため、矢田川右岸域の避難については近隣の連区の避難所を検討する必要がある。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員（目安）		
	長期	初期	直後
本地会館	40人	65人	110人
幡山公民館【菱野連区】	40人	80人	130人
長根公民館【長根連区】	60人	115人	190人

※地域防災計画より

凡例	
	避難所・緊急避難場所（風水害）
	緊急避難場所 兼 避難所
	避難所等からの対象範囲（同心円）
	避難所から700mの範囲



これらの地域では避難所までの距離が700m以上である。

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【16-C-1】 本地連区 地震災害 その1

- 耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い地域が連区内の広範囲に分布している。
- 矢田川および本地川沿いに、液状化の可能性が高い地域が存在する。
- 連区南西部の広い範囲にて、地震時の避難所までの距離が離れている。

【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

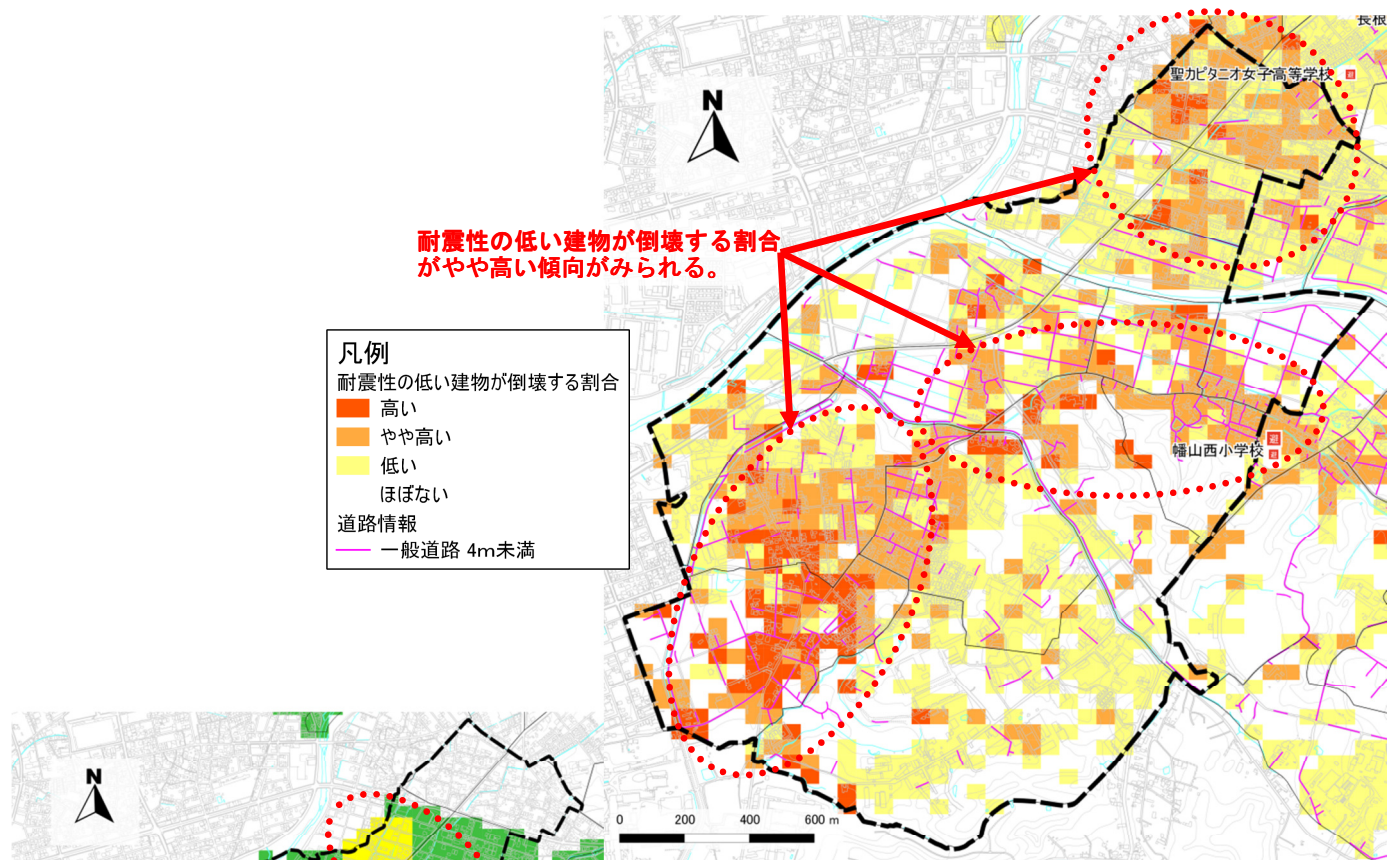
本地連区ではほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。このうち、以下の地域で耐震性の低い建物の倒壊する割合がやや高い傾向がみられる。

- ①矢田川北側（西原町1丁目、高根町1～2丁目）
- ②矢田川と本地川に挟まれた地域（東本地町1～3丁目、駒前町）
- ③本地川南側（井戸金町、坂上町）

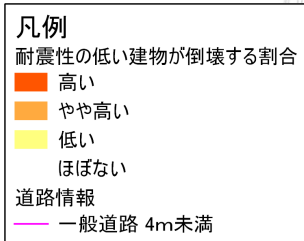
(2) 液状化について

矢田川およびその支流で形成された沖積低地（谷底平野）では、液状化の可能性が高い地域として下記の地域がある。

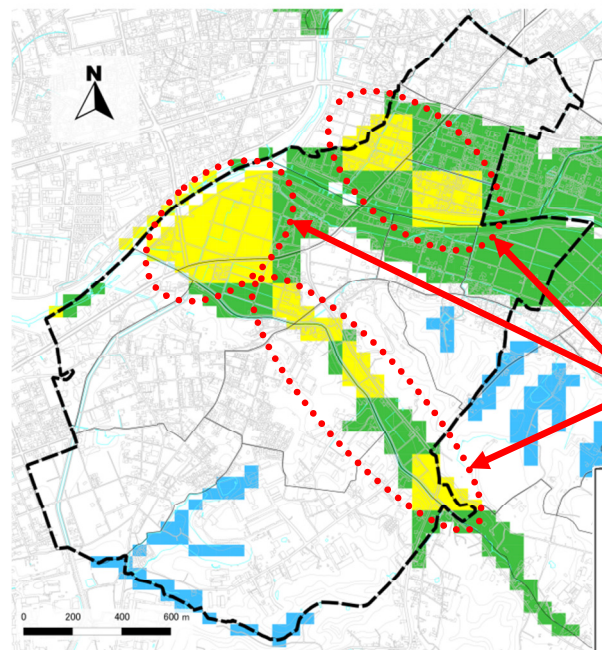
- ①矢田川と本地川が合流する地域（西本地町2丁目）
- ②本地川の沖積低地（西本地町1丁目、駒前町）
- ③瀬戸川と矢田川が合流する地域（西原町2丁目、高根町3丁目）



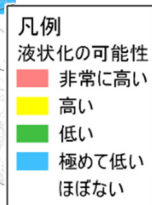
耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い傾向がみられる。



建物(木造および非木造)倒壊危険度図



液状化の可能性が高い地域がある。



液状化危険度図

【16-C-2】 本地連区 地震災害 その2

【地震時の避難所および緊急避難場所】

本地連区は、地震時の避難所・緊急避難場所に指定されているところはない。近隣の菱野連区に避難所および緊急避難場所として幡山西小学校が、また長根連区に緊急避難場所として聖カピタニオ女子高等学校が指定されている。

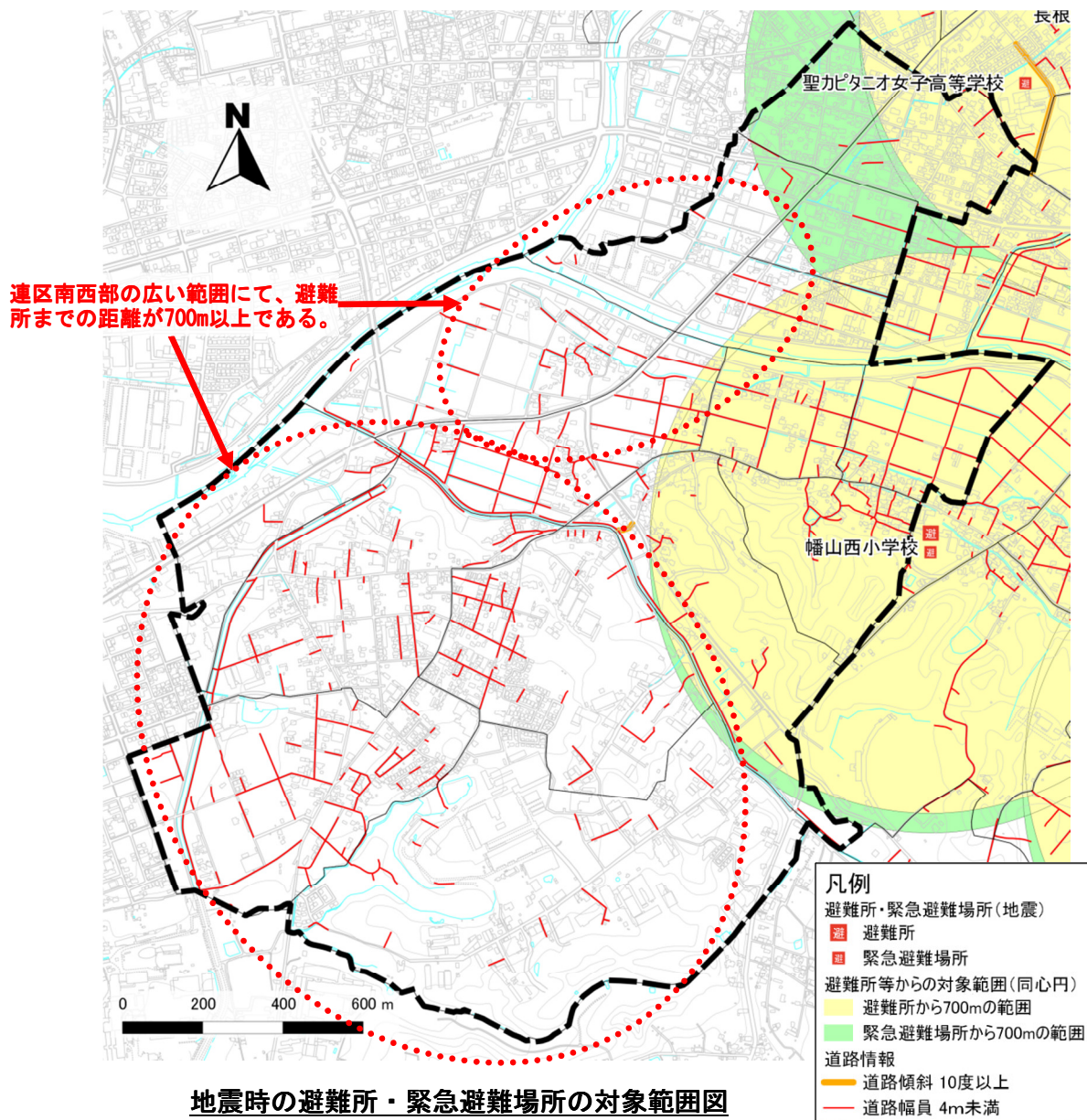
下記のとおり、本地川南側のほぼ全域と本地川北側の一部地域において、地震時の避難所もしくは緊急避難場所までの距離が700m以上離れている。

- ① 本地川北側地域 (西本地町1~2丁目)
- ② 本地川南側地域 (小坂町・坂上町・坊金町・井戸金町・山の田町)

また広い範囲で液状化の可能性が高い地域があり、特に矢田川およびその支流に沿った谷底低地で可能性が高い。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
聖カピタニオ女子高等学校 (運動場)【長根連区】	幡山西小学校 【菱野連区】	95人	190人	305人
幡山西小学校(運動場) 【菱野連区】		※地域防災計画より		



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図